

研究内容の説明文

研究課題名	自己免疫・アレルギー疾患における生物学的製剤による免疫反応とその有用性に関する臨床研究
研究期間	平成 25 年 11 月～平成 29 年 12 月
研究機関名	大阪大学医学系研究科
研究責任者職氏名	大阪大学呼吸器免疫アレルギー内科 講師 嶋 良仁

研究の説明

1 研究の目的・意義

現在、関節リウマチをはじめとした多くの自己免疫疾患の治療が、特定分子や免疫細胞をターゲットとした生物学的製剤の登場により日々進歩しています。その一方で、それら生物学的製剤による各免疫細胞に対する影響は十分明らかにされていません。本研究において、健常者と自己免疫疾患患者の免疫系に対する生物学的製剤の影響を評価することにより、各病態における重要なあるいは薬剤により影響を受けている免疫細胞を同定し、その細胞の機能を明らかにしていくことで、生物学的製剤の有効性をより明確にし（効果の得られやすい病態と得られにくい病態を明らかにし）、さらに病態に影響する免疫細胞の役割を明らかにしていくことで、自己免疫疾患の病態解明とその治療への応用を目指します。

2 方法《献血血液の使用方法含む》

献血者を含む健常者と関節リウマチを中心とした自己免疫疾患患者の末梢血液から、末梢血中単核球細胞（PBMC）を単離します。フローサイトメトリーにて、健常者と患者や治療前後の患者の免疫細胞の各細胞集団の割合や、表面マーカー、サイトカイン産生能、分裂能を評価し、免疫疾患と治療の影響を評価します。さらに、変化を認めた細胞を、PBMC から分離し、試験管内での培養実験として、薬剤に対する反応性やその細胞自身の機能を解析する予定です。

3 予測される研究の成果等

各病態や薬剤投与の影響を受けて変化した免疫細胞を同定でき、その細胞自身の性質と薬剤により影響を受けて変化した性質を捉えることができると予想します。そこから、その薬剤がより有効性を示す条件を割り出すことが治療に役立ち、その細胞が病態の中でどのような役割を果たしているか明らかにしていくことが病態解明へつながると考えます。

4 血液の廃棄と保管

回収した検体は PBMC として液体窒素タンク内または-80 度フリーザーにて凍結保存します。研究期間終了後は、メスキュード缶へ破棄し、専門業者にて回収・破棄していただきます。

受付番号 28J0024

本研究に関する問い合わせ先

所属	大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器免疫アレルギー内科
担当者	森田 貴義
電話	06-6879-3833
Mail	t-morita@imed3.med.osaka-u.ac.jp